

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	そらのとり(児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年 1月 1日		～ 2025年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童精神科医師の監修のもと、専門的なアセスメントを実施して、プログラムに反映している。	作業療法士や公認心理師のアセスメントを実施しスタッフに周知している。 日々の療育プログラムを担当者が作成し、支援方針に沿っているキャリアー職員とともに検討している。	年に数回施設内での職員研修や外部講師による研修を実施している。 スタッフを外部的研修に派遣している
2	保護者支援が充実している	お迎えの時に、日々の療育内容を保護者と共有し、相談を受けている。 保護者参観を定期的実施して、療育場面を観察してもらう機会を作っている。	できるだけ保護者と顔を合わせて話す機会を多く作るようにしている。
3	保育所等訪問支援やサービス担当者会議等で支援機関との連携を図りながら支援を行っている。	保護者と関係機関との間に入ることで、保護者が安心して施設と関わることができるようにしている。 就園に向けて、入園先に情報提供を実施したり、学校に送迎の際に療育中の様子を学校と共有するようにしている。	ケア会議で、そらのとりの療育場面での様子を園や学校と共有し、子どもの支援目標を共有できるようにしている。
4	お子さんの状態に合わせて、支援員を配置し、丁寧に支援している。	子どもの様子を日々アセスメントして、一人ひとりの課題に合わせて、集団のプログラムを実施している。	必要な児童には、専門職員(作業療法士または公認心理師)による専門的支援を実施している。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	車椅子などの利用が難しい。	事業所が2階にあるため	今後階段昇降機などの設置や、適切な介助方法を検討する。
2	他施設や地域の人との交流が少ない	地域の施設に事業所を知ってもらい、交流の機会を作っていく。児童館など、地域の施設への訪問も、諸施設との交流を図りながら検討していきたい。	
3	帰りの送迎対応をしていない	保護者にお迎えに来ていただくことで、お子さんの様子を保護者と共有し、相談の機会をしている。一方で、送迎が必要な保護者もいるが十分対応できていない。	職員の拡充など、体制整備に努め、ニーズに対応できるようにしていきたい。
4	行事や災害マニュアル、療育内容が十分伝わっていない事がある。	おたよりや、日々の振り返りで、周知している。	保護者の皆さまがよりアクセスしやすくするために、HPへの掲載や、マニュアルの設置場所の周知を行ってきたい。